

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	上峰町立上峰中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の強みである校内研究は、「生徒が主体的・協働的に取り組む道徳科の授業を通して」をテーマに、昨年度取り組んだ「学び合い活動」に加え、「発問」「板書」「評価」という視点からも授業改善を試み、全ての職員による授業実践と授業公開ができた。</li> <li>この研究を通して、91.8%の生徒が道徳の授業は自分の生活の役に立っていると答えており、生徒の道徳性を高めたいと考え、道徳科の学びを日常生活と関連付けるような指導を心掛けてきたことが成果として表れたものと思われる。</li> </ul>

2 学校教育目標	<p><b>心豊かにたくましく生きる生徒の育成</b> ～自ら考え、主体的に判断し行動する中学校生活を通して～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① <b>社会で活用できる（通用する）基礎学力学力向上のための一人一人の学びを大切に学習環境づくり</b>、② <b>安心・安全を最優先した学習環境づくり</b>、③ <b>道徳教育の充実による豊かな心と社会性の育成</b>、④ <b>開発的な生徒指導の展開（「生徒指導の3機能」を基にして）</b>、⑤ <b>全教職員によるフォローアップと創意的で効率的な学校経営の展開（「働き方」改革へ）</b></p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・学力調査の分析と課題解決のための洗い出し。 ・「上中授業スタイル」の共通実践 ①めあての提示、②見直し、③学び合い活動、④まとめ、⑤ふり返り ・学習規範の指導徹底 ①2分前着席、②元気に挨拶、③元気に返事、④注目傾聴	A	・上峰中授業スタイルについて、自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が88%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。 ・学び合いの充実度は、自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が76%。学び合い活動が好きかどうかの生徒アンケートでは、「好き」「まあまあ好き」の合計が1年生76%、2年生81%、3年生89%であった。 ・授業規範については、2分前着席はほぼ全時間で達成できているが、挨拶、返事はできていない部分もある。	A	・上峰中授業スタイルについて、先生方の医師が統一されている。自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒アンケートでは「できている」「まあまあできている」の合計が95%。 ・学び合いの充実度は、自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が85%。学び合い活動が好きかについては、「好き」「まあまあ好き」の合計が、1年生88%、2年生100%、3年生92%であり、いずれも中間評価よりも伸びている。	A	・授業スタイルが統一されており、先生も生徒も授業に取り組みやずくなっているのではないかと感じた。 ・電子黒板なども有効に使われていると感じた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・学年主任
	○新型コロナウイルス感染症拡大に備え、臨時休業、分散登校対応に家庭学習や補充学習の充実を図る。	○生徒や保護者対象の学校評価(外部アンケート)で、「家庭学習の習慣が身についている」の項目で、生徒90%以上、保護者80%以上を目指す。	・予習を意識した家庭学習の課題づくりの工夫研究。 ・生徒会図書委員会との連携による図書館利用の充実。 ・「すくすくテスト」や「学習クラスマッチ」、佐賀大学と連携した長期休業中の補充学習等の推進。	A	・家庭学習の手立てや工夫の問では、自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が94%。1年生では保護者82%、生徒84%、2年生では保護者72%、生徒90%、3年生では保護者86%、生徒91%であり、1年生生徒、2年生保護者を除き概ね目標を達成している。 ・佐賀大学との連携については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施していない。	A	・家庭学習の手立てや工夫の問では、自己評価で「できている」「まあまあできている」の合計が90%にに対し、1年生では保護者79%、生徒92%、2年生では保護者78%、生徒86%、3年生では保護者93%、生徒92%であり、2年生保護者を除き概ね目標を達成している。 ・発問等の工夫については、道徳科での研究が他教科にもよい影響を与えている。	A	・家庭学習の定備は大切であるので、今後も力をいれてほしい。 ・タブレットドリルを自分のレベルに合わせて実施できるのは大変良いと思った。	・研究主任 ・学年主任 ・生徒会担当
●心の教育	●「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目指した特別の教科「道徳」を通じた校内研究の充実 研究テーマ 「生徒の成長を見取る道徳科の授業を目指して」	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒95%以上を目指す。 ○「校内研究の成果と課題」における職員アンケートの自己評価(4段階)において、平均値3.5以上を目指す。	・道徳全体計画と年間指導計画、教科との関連(別業)の提示 ・道徳科の7つの授業実践 ①価値に迫る発問の工夫、②多様な価値観に触れる学び合い活動の工夫、③深めた価値が残る板書、④評価の視点の提示、⑤TT授業、⑥年間3回の授業研究方法、⑦教材及び授業のデータ管理	A	・研究主任のリーダーシップのもと、毎週水曜日に道徳授業が確実に実施されており、TTを活用した学年毎の指導法の研究が熱心である。 ・道徳の授業が生徒自身の生活に役に立っているかの問には、「役に立っている」「まあまあ役に立っている」の合計が1年生89%、2年生87%、3年生91%であり、授業についてはもう工夫が必要である。 ・校内研究における指導方法の改善についての自己評価は4段階で3.2であり、生徒の評価と同じもう工夫が必要である。	A	・前期に引き続き、研究主任のリーダーシップのもと、毎週水曜日に道徳授業実践が確実に行われた。授業公開では、本校の取組みに対し各校の先生方から意見を頂いたり、講師の先生から助言を頂いたこと、校内研究が一段落した。 ・校内研究を通じて指導方法の改善ができたか問に、自己評価では、「できている」「まあまあできている」の合計が95%。生徒の道徳は役に立っているかの問では、1年生96%、2年生87%、3年生90%であり、前期とあまり変わっていない。 ・校内研究における指導方法の改善についての自己評価は4段階で3.3であるが、授業への熱意をもって取り組んでいる。	A	・道徳の授業は大変素晴らしいと聞いている。子どもたちの心を豊かにするために、今後もぜひ力をいれて指導してもらいたい。	・研究主任 ・学年主任 ・生徒会担当
	●◎人権尊重の視点に立った学校づくりを目指す。 ・いじめ防止対策 ・人権・同和教育 ・開発的生徒指導	○生徒や保護者対象の学校評価(外部アンケート)で、「いじめに関する項目」で、生徒、保護者95%以上を目指す。  ○生徒会活動において、生徒の参画意識80%以上を目指す。	・道徳や特別活動において計画的に教材化を図る。 ・教育相談部とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にする。 ・インターネット上のいじめに対応するために情報モラルの教育を計画的に行い、いじめ防止に努める。 ・生徒会を主体的に活動させた開発的生徒指導の具体的な取組を示す。	A	・道徳の時間を要し人権教育が熱心に行われている。生徒会主催で人権集会を開催し、生徒が自ら企画し、生徒が自分たちで人権についての考えを深めることができた。 ・課題別部活問題では、道徳と社会科が教科横断的に指導できた。 ・SNSを用いたいじめ等については全校集会や学年集会等を通して、時期を逃さずに指導を行った。 ・いじめのない学校か問には、1年生保護者97%、生徒92%、2年生保護者96%、生徒91%、3年生保護者97%、生徒95%が「そうである」「まあまあそうである」と回答している。 ・生徒会活動については、3学年とも90%を超える生徒が生徒会活動などの自分の役割を果たしていると回答している。	A	・いじめの早期発見を図るための生徒理解と教育相談体制の構築についての自己評価は、「できている」「まあまあできている」の合計が100%であり、意識を高くもって指導することができた。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用により、落ち着いて学校生活を送ることができた生徒が増えた。 ・いじめのない学校か問には、1年生保護者96%、生徒92%、2年生保護者100%、生徒95%、3年生保護者97%、生徒95%が「そうである」「まあまあそうである」と回答している。 ・生徒会活動については、役員を中心に自治活動が進められており、前期に続き、3学年とも90%を超える生徒が生徒会活動などの自分の役割を果たしていると回答している。	A	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは2人配置されているのはよい。 ・引き続き、いじめの防止や人権意識の高揚に努めてもらいたい。	・生徒指導担当 ・人権同和教育担当 ・生徒会担当
●健康・体づくり	●安全教育的徹底と危機回避能力の育成 ・生活事故、交通事故の防止対策 ・自然災害等の防災教育	●児童生徒の生活事故や交通事故発生時の現場検証を徹底し、再発ゼロを目指す。  ●危機事象が発生したときの緊急連絡・報告の徹底(ノームス)を目指す。	・生活事故や交通事故における現場における事故検証を行い、職員へ注意喚起する。 ・交通安全や防犯教室、避難訓練の実施、各施設の安全管理点検及び補修。 ・学校内外の危険箇所マップの活用、緊急メールによる情報の速やかな発信。 ・立ち番指導による生徒の登下校時の安全確保を行う。	A	・交通安全教室、火災避難訓練、防犯教室、交通立ち番指導を実施し、安全・防災教育のスキルアップや意識向上ができた。また、大規模、新型コロナウイルス感染症、再掲け事案等、マナーメールを積極的に活用し危機管理対策を講じていることができた。さらに学校行事においては、入場限りの協力と理解を促すことができた。 ・生徒の救急搬送の事案が2件あったが、いずれも職員の連携により緊急連絡・報告を迅速かつ確実に行うことができた。 ・自己評価において、感染症予防の指導充実度は、「できている」「まあまあできている」の合計が96%であった。	A	・「生徒の健康・安全教育について、感染症予防や交通・生活事故防止に向けた指導や対応ができていた。」の質問項目では、自己評価において、「できている」「まあまあできている」の合計が100%。生徒・保護者アンケートでは、「できている」「まあまあできている」の合計が、1年生97%、保護者99%、2年生97%、3年生98%、保護者99%、2年生97%、3年生98%、保護者99%であり、高評価を得た。今後も感染症対策や交通事故、生活事故防止に努めていくよう指導している。 ・危機事象への対応については、年間を通してスムーズに行えた。	A	・大きな事故がないのはよかった。 ・方が一時的には、スムーズな対応がとれるよう今後もしっかりとした準備をお願いしたい。	・生徒指導担当 ・安全教育担当
	○新型コロナウイルス感染予防に向けた共通実践	○本校生徒及び職員から感染者、クラスターを発生させない。	・感染予防策を通知やマナーで注意喚起を促し、オンラインでの学習や健康促進に向けた過ごし方を情報発信する。	A	・手洗いうがい、マスク着用、手指消毒の徹底、感染拡大防止に向けた指導や意識向上ができた。 ・クラスターや感染者が発生することがなかった。	A	・1月以降16名の感染者が出たが、手洗いうがい、マスク着用、手指消毒の徹底、感染拡大防止に向けたオンラインでの集会の開催、給食時の換気の徹底等により、クラスターを発生させることなく済んだ。	A	・現在の状況の中、クラスターを発生させずに済んでいるのはすごいこと。引き続き感染対策に努めてもらいたい。	・管理職 ・養護教諭 ・保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・出勤時間をデータ管理し、時間外勤務状況を職員へ知らせ、時間外超過の職員に対し、学年や校務分掌の偏りをなくせるようフォローアップ機能を図る。	C	・部活動や教材研究が理由で時間外超過が課題であり、月45時間を超える職員の割合は、コロナによる休校がなかった令和元年度(62%)と比べると減少しているものの、54%の職員が月45時間を超えている。自己評価でもタイムマネジメントやワークライフバランスの問について、「あまりできていない」が24%と高い。	B	・令和3年4月から令和4年2月までの時間外勤務のひと月当たりの平均は42時間であり、やや改善の傾向が見られた。自己評価でもタイムマネジメントやワークライフバランスの問について、「できた」「まあまあできた」が76%であった。部活動指導後1時間以内での運動を呼びかけたところ、残業が減ってきている。	B	・仕事の時間を短くしても仕事はできるので、短時間で集中して行えるようにするといのではないかと。 ・上司が率先して早く帰るようにや休みを取るよう呼びかけることも有効ではないか。	・管理職

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果			評価
○新型コロナウイルス感染予防における臨時休業、分散登校中場合の学習保障を目指す	○町教委と小学校との連携でオンラインミーティングの体制づくり	○すべての生徒にオンライン体制の整備を整える。	・ZOOMにおけるオンライン環境の整備。 ・各家庭のオンライン環境をアンケートで把握し、不足のないよう教育委員会とインテアチブをとる。 ・配信内容の工夫・研究に努め、学習保障の手立てを講じる。	B	・学期に1回「オンラインの日」を設け、新型コロナウイルス感染症拡大に備えている。 ・ZOOMによるオンライン通信の環境はほぼ整備できているが、今後は授業配信等の実現に向けた取り組みが必要である。 ・一人一台タブレットを持っているので、ドリル学習等の活用を進めていく必要がある。	A	・ZOOMによるオンライン配信の環境整備を整えることができた。生徒もスムーズに入ってくるようになるようになった。 ・タブレットドリルの学習については、新型コロナウイルス感染症関連で登校できない生徒の学習保障に活用することができた。	A	・オンラインについては、個人情報など難しい面もあると思うが、時代に即して実践していただきたい。	・管理職 ・ICT担当
特別支援教育	○生徒個々の特性に応じた指導の実践	○特別支援教育について、校内研修会に積極的に参加し、特性に応じた指導に取り組んだと回答した割合を100%にする。	・特別支援教育に関する校内研修会を開催する。 ・教職員間で情報交換を行い、個々の生徒の特性に応じた実践指導を行う。	B	・特別支援教育に関する研修については生徒指導協議会等で個別の生徒への対応を協議し、特性に応じた実践指導に取り組んでいるが、自己評価では24%が「できていない」「あまりできていない」と回答している。	B	・特別支援教育について特性に応じた指導実践に取り組んでいることについては、「できている」「まあまあできている」の回答が76%だった。	B	・人数が増えて大変だとは思いますが個に応じた指導をお願いしたい。 ・場合によっては特別支援学校でまなぶことの方がよい場合もあるのではないかとと思う。	・管理職 ・特別支援コーディネーター ・特別支援教育担当

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上については、本校独自の授業スタイル「上中スタイル」が生徒・教員ともに浸透している。今後は更なる知識・技能の定着を目指し、思考力・判断力・表現力を十分に活用した授業を展開していきたい。</li> <li>心の教育については、本校の目玉でもある「道徳科」において充実した研究を行うことができた。今後はそれを発展させ、「道徳科」で学んだことを学校の教育活動全体で生かせるように研究を進めていきたい。</li> <li>健康・体づくりについては、何よりも校内における新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐことができたので、引き続き高い意識をもって感染防止に努めていきたい。</li> <li>休校や学級閉鎖に備えた授業のオンライン配信の環境整備はほぼ整っているため、今後は実際の配信による課題を見付け、解消に努めていきたい。</li> <li>特別支援教育については、個別の指導について、全職員が共通理解をもつ必要があるため、外部講師を招いた研修を行うなど、個々のスキルを高めていきたい。</li> </ul>
----------------	--